会議名 ニセコ町学校運営協議会推進委員会(第5回 平成28年度・第1回)

開催日平成28年6月8日会議時間開会 午後 3時00分
閉会 午後 4時50分会議場所記録者ニセコ町役場 第2会議室ニセコ中学校事務職員 三坂 宜巳

出席委員:萬谷委員、矢島委員、松本委員、井上委員、山野委員、飯田委員、小中委員、

渡邉委員、田邊委員、日野浦委員、菊地委員、加藤委員、高瀬委員

教委: 淵野係長、笹森主事、三坂

会議内容

1. 開会

2. 教育長あいさつ

研究事業2年目に入り、今年度はより多くの方の意見を聞きながら進めたい。ニセコ町の子どもたちの実態を踏まえ、学校だけでなく自然や地域資源・人材など、地域の力を借りて教育に関わってもらうことがCSではないか。幼児センターから高校まで一体化した教育の仕組みを使って、子どもたちを育てるニセコスタイルの教育にしたい。幼稚園から高校までCSの仕組みを導入するのはニセコ町が全国初の試みになるだろう。

3. 委嘱状の交付

机上に配布

4. 正副委員長の選出について

互選により、委員長に渡邉委員 (ニセコ中学校長)、副委員長に飯田委員 (ニセコ小学校長を選出した。

5. 委員長あいさつ

2年目がはじまり、8月からは具体的な制度設計について話を進めていくこととなる。 昨年フォーラムに参加した際、千葉県の秋津コミュニティの岸先生のお話が印象に残っている。「学校は年間200日しかない、残り165日は地域として学校を活用できる」という話だ。土日の部活動でも、地域の方が入り見守るというシステムがあっても良いのでは。子どもたちをどのように育てていくか、共通理解を持ち熟議しながら進めていくことが大切である。

6. 議事

(1) コミュニティ・スクール導入促進事業について (淵野係長:資料により説明)

【ニセコスタイルの教育】

- ・地域の多様な人々との関わりや様々な軽々により子どもの主体性や協働性が育まれる
- ・保護者や住民が積極的に学校運営に参画し、課題を学校・家庭・地域で解決する
- ・小中連携一貫教育にも取り組む

【コミュニティ・スクールとは?】

- ・地教行法に規定する「学校運営協議会」を設置した学校の呼び方
- 学校運営協議会の設置は教育委員会が指定
- 学校運営協議会の委員は教育委員会が任命

【学校運営協議会の役割】

- ① 学校長は、「学校運営の基本方針」の承認を得なければならない
- ② 学校運営協議会は教育委員会や校長に意見を言うことができる
- ③ 学校運営協議会は教職員の任用に関し、教育委員会に意見をいうことができる ※①は必須の機能、②③は任意

【調査研究1年目の取り組み/成果】

- 会議の開催やCSマイスターによる研修会を行うことで、CSの理解促進が進んだ
- ・先進地視察研修を行い、取り組みなど吸収することが多かった
- 広報活動を行い家庭や地域住民の理解促進をはかることができた。

【調査研究2年目の取り組み】

- ・保護者や地域住民・教職員への理解向上のため研修会や広報活動を積極的に行う
- 新しい委員を加え、学校支援や一貫教育の視点を加えた検討を進める
- 制度導入に向けた関係規則などの整備や予算の確保を行う
- (2)調査研究のスケジュール/予算

資料により本年度のスケジュールと予算を確認

(3)熟議

テーマ「ニセコに誇りを持てる子どもを育てるためには」について、 3 グループに分かれてワークショップ形式の話し合いを行い、その内容について発表を 行った。

グループ① (萬谷委員・井上委員・小中委員・菊地委員・高瀬委員)

- ・行事やイベントに参加し多くの人と関わること
- ・ニセコ町の良さを知るために自然や歴史を知ろう
- ・高齢者の方に昔遊びを教えてもらう、自然を生かした体験をする

グループ②(矢島委員・山野委員・日野浦委員・渡邉委員・笹森)

- ニセコに住む人がニセコを好きになること
- ・地域の特色を利用しながら、生きるすべを身につけさせることが誇りにつながる
- 学校と地域が同じ目的を持って子どもたちの成長を支援する

グループ③(松本委員・飯田委員・田邊委員・加藤委員・三坂)

- ・ニセコという地域、自然、環境、歴史を知ること
- ・沢山の人とコミュニケーションをとり役に立つことで自己肯定感、有用感につながる
- ・親だけではなく町全体で子どもたちを見守る仕組み

(4) その他

7. 閉会